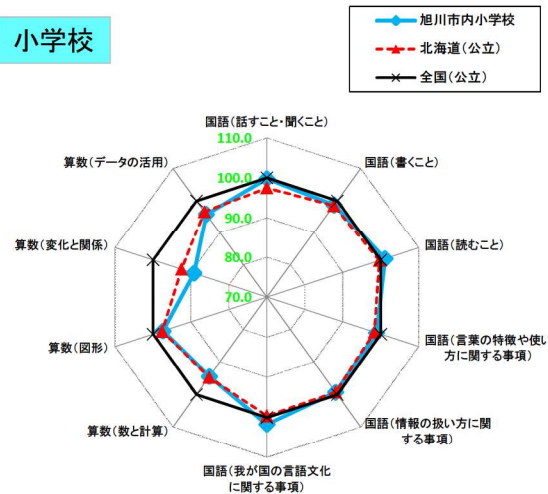


■旭川市内の状況及び学力向上策（小学校数：50校、児童数：2103人）（中学校数：25校、生徒数：2086人）

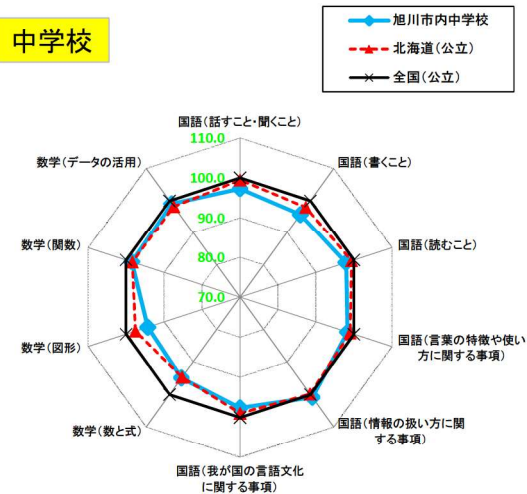
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

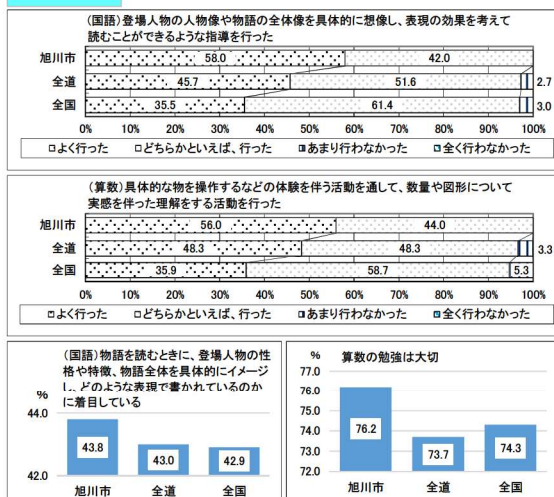


中学校

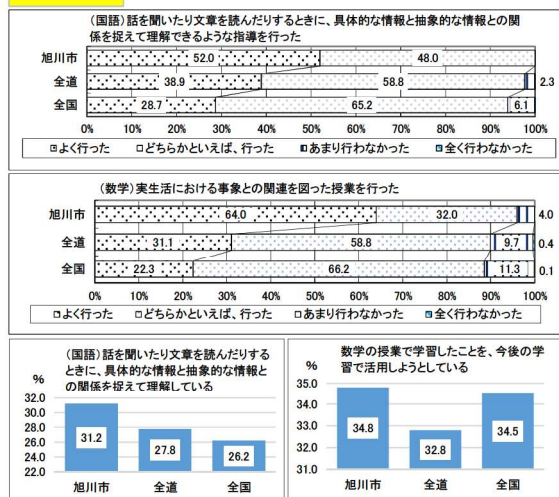


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えることができるような指導を行ったことにより、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で書かれているのかに着目していたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回った。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う活動を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「図形」領域で平均正答率が全国に最も近くなった。

中学校

国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解できるような指導を行ったことにより、国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「情報の扱い方に
関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回った。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国に最も近くなった。

【旭川市の学力向上策】

- ◎ 「旭川市確かな学力育成プラン」に指導の重点として位置付けた「学びを深める授業づくり」「落ち着いた学級づくり」「望ましい学習習慣づくり」に基づく取組の推進及び各学校における「学力向上ロードマップ」の作成
- ◎ 国語、算数・数学等を担当している教員と市教委指導主事とで構成した授業力向上プロジェクトチームによる全国学力・学習状況調査結果の分析を踏まえた「旭川版 指導の改善策」及び「授業のポイント集」の作成と各学校・各種研修会等での活用
- ◎ 「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」推進教員による配置校及び連携校の教員への授業改善に向けた継続的な指導の実施
- ◎ 全小・中学校で導入しているオンライン教材を活用した、個に応じた指導の充実

【Webページ】



（R6.12掲載予定）

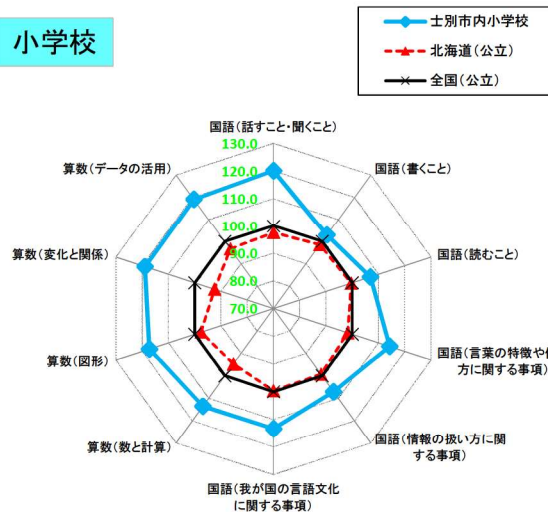
■士別市内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:71人）（中学校数:4校、生徒数:116人）

【教科全体の状況】

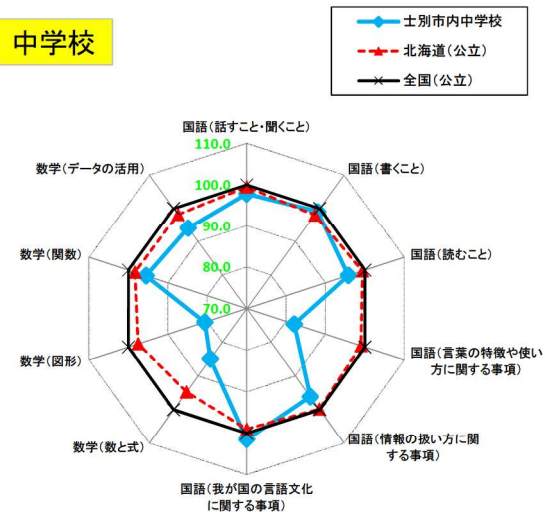
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	75	55
算数・数学	74	47

小学校

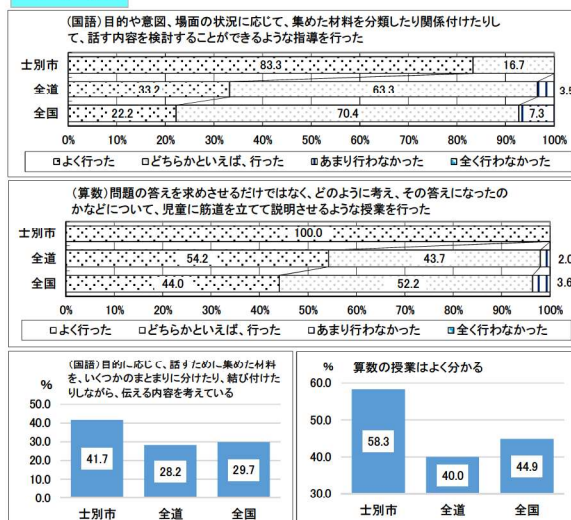


中学校



【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり、結び付けたりしながら、伝える内容を考えていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、算数の授業はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

市教育委員会（指導主事）と士別市教育研究会が連携し、小・中学校教職員を対象とした授業改善に向けた実践交流を実施したことにより、授業改善が図られ、学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「我が国の言語文化に關する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒が、それぞれの良さを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【士別市の学力向上策】

- ◎ 個に応じた家庭学習の課題設定と、習熟度別学習などの個別最適な学習の充実と工夫
- ◎ 市教育委員会（指導主事）と士別市教育研究会が連携し、小・中学校教職員対象の授業改善に向けた実践交流の実施
- ◎ 朝や休み時間、放課後における補充的な学習と、社会教育と一体化した長期休業中における個別的・協働的な学習の設定

【Webページ】

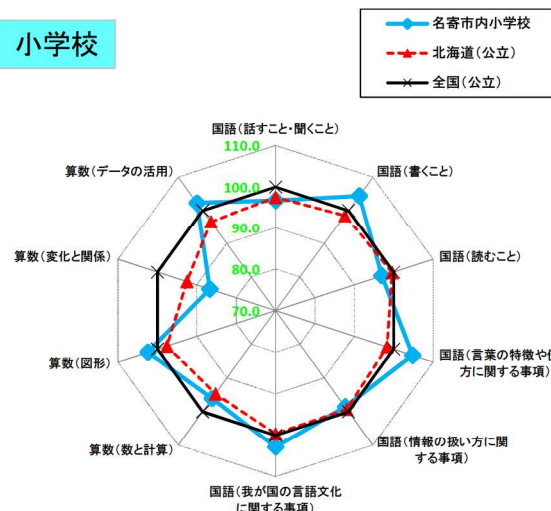


■名寄市内の状況及び学力向上策（小学校数:7校、児童数:189人）（中学校数:4校、生徒数:156人）

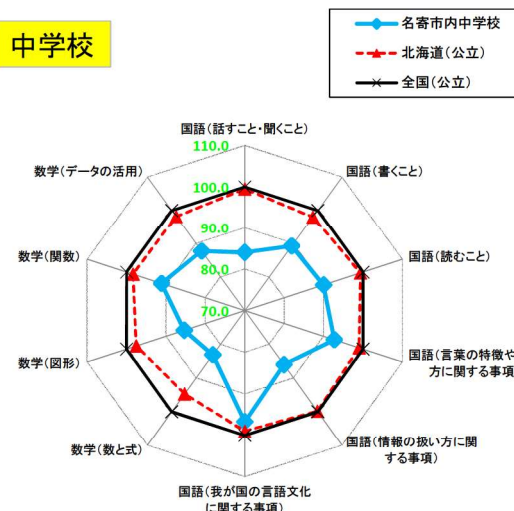
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

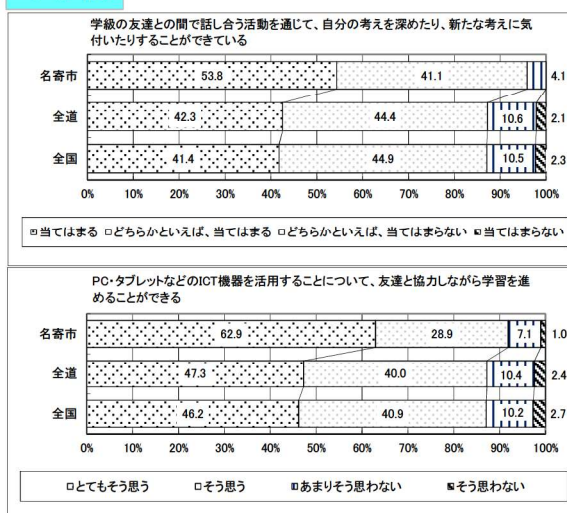


中学校

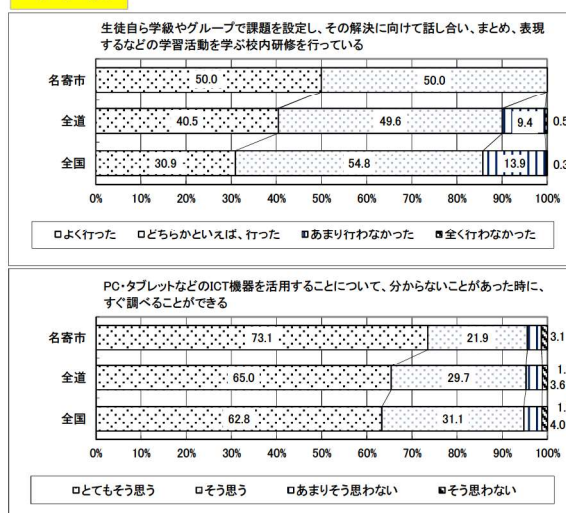


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心とした、市内小・中学校が一体となって進める授業改善と学年・学級経営の充実に向けた取組を推進したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域2事項及び算数の2領域で平均正答率が、全国及び全道を上回った。

名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心とした、1人1台端末を活用した指導方法や教材等の工夫・改善に向けた取組を推進したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全道及び全国を上回った。

中学校

名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心とした、市内小・中学校が一体となって進める授業改善と学年・学級経営の充実に向けた取組を推進したことにより、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っているという回答した学校の割合が全国及び全道を上回った。

名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心とした、1人1台端末を活用した指導方法や教材等の工夫・改善に向けた取組を推進したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、分からないことがあった時に、すぐ調べることができるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回った。

【名寄市の学力向上策】

- ◎ 名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心とした、市内小・中学校が一体となって進める授業改善と学年・学級経営の充実に向けた取組の推進
- ◎ 名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心とした、ICTを日常的に活用した教育活動及び「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に資する1人1台端末を活用した指導方法や教材等の工夫・改善に向けた取組の推進

【Webページ】



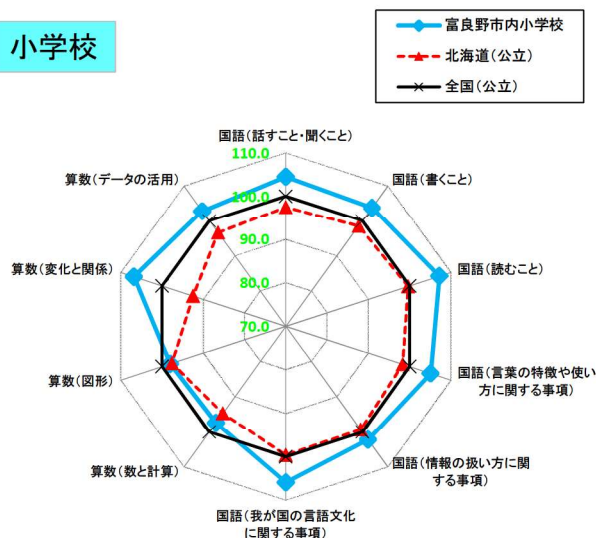
（R6.12掲載予定）

■富良野市内の状況及び学力向上策（小学校数：7校、児童数：143人）（中学校数：4校、生徒数：118人）

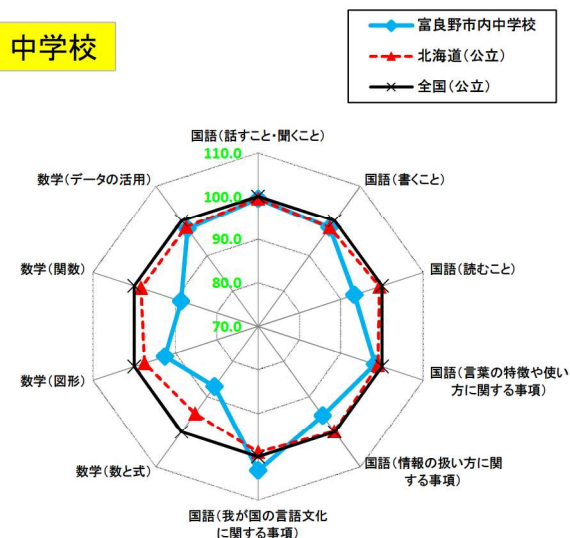
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

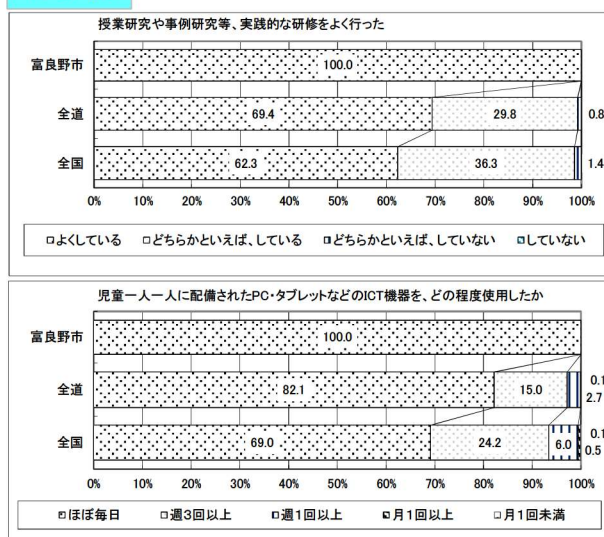


中学校

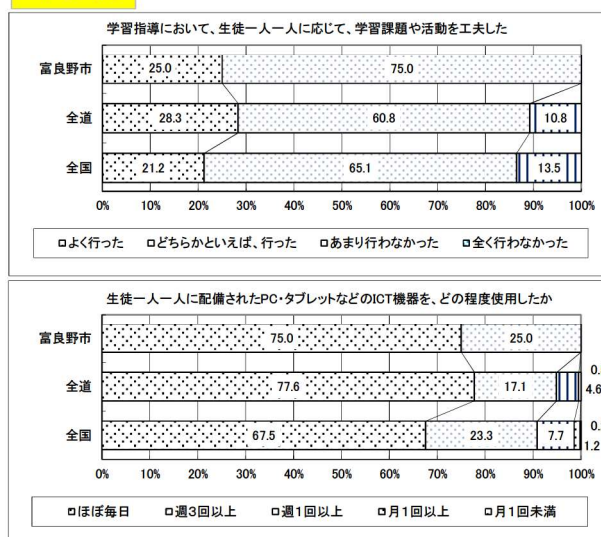


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

「富良野市学力向上推進プロジェクト」による分析結果・授業改善の方策を示したことにより、授業研究や事例研究等、実践的な研修をよく行ったと回答した学校が全国及び全道を上回ったとともに、国語の全ての領域、算数の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

富良野市ICT推進委員会による授業交流及び市主催の教職員研修を実施したことにより、学校において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、生徒一人一人の理解度に応じた指導が充実され、国語の1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

富良野市ICT推進委員会による授業交流及び市主催の教職員研修を実施したことにより、学校において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したと回答した学校の割合が全国を上回ったと考えられる。

【富良野市の学力向上策】

- ◎ 「富良野市教育振興基本計画」及び「富良野市教育推進計画」に基づく市内小・中学校、教育委員会が一体となった学力向上の取組の推進
- ◎ 「富良野市学力向上推進プロジェクト」による分析結果・授業改善の方策等を掲載した調査結果概要の作成及び児童生徒の学習状況の改善、家庭や地域の教育力の向上に向けたリーフレットの作成
- ◎ 富良野市ICT推進委員会による実践交流、1人1台端末の効果的な活用に向けた授業改善の推進及び市主催による教職員研修の実施

【Webページ】



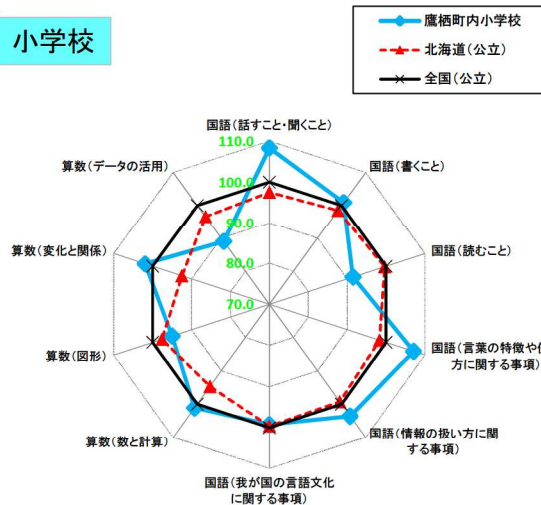
■鷹栖町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：50人）（中学校数：1校、生徒数：48人）

【教科全体の状況】

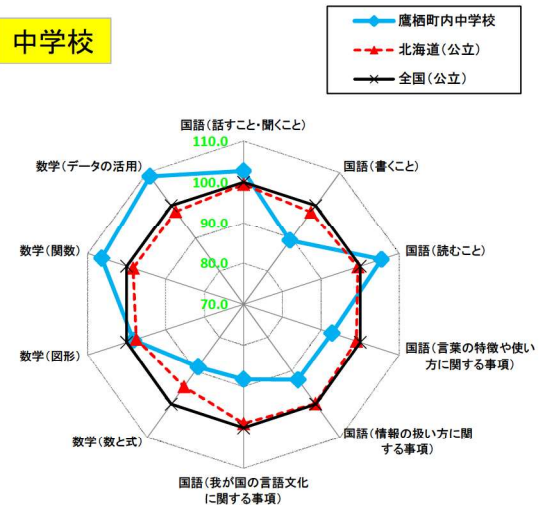
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	56
算数・数学	62	53

小学校

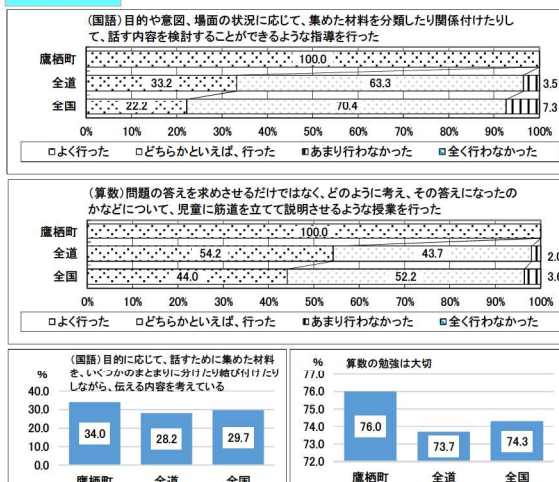


中学校

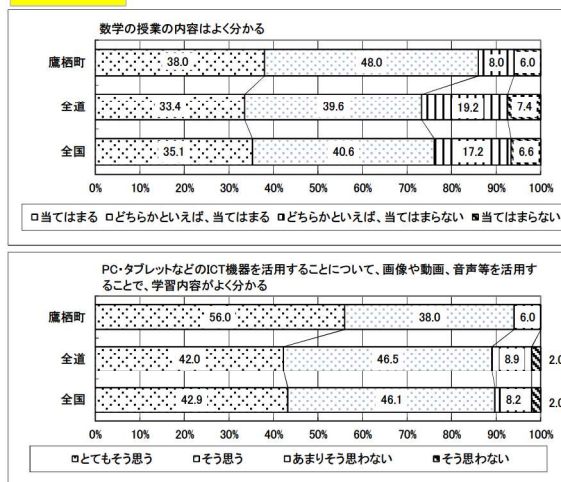


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行ったことにより、国語の授業で目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考え、伝える内容を考えていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域と「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を計画的に行ったことにより、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「数と計算」「変化と関係」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

指導方法工夫改善加配による習熟度別指導の充実を図ったことにより、数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

1人1台端末の活用に向けた研修の実施及び学習支援ソフトや電子黒板等を活用した学習活動の推進を図ったことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【鷹栖町の学力向上策】

- ◎ 学習指導要領の趣旨を踏まえた計画的な教職員研修の実施
- ◎ 放課後や休日等における学習機会の提供や習熟度別指導の充実
- ◎ 英語教育の充実を図る小・中学校の連携（専科教員及びALTの活用）
- ◎ 1人1台端末の活用に向けた研修の実施及び学習支援ソフトや電子黒板等を効果的に活用した学習活動の推進

【Webページ】



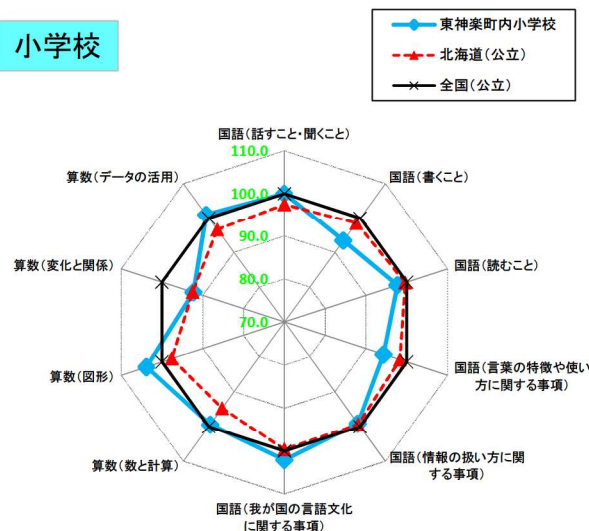
■東神楽町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:122人）（中学校数:1校、生徒数:103人）

【教科全体の状況】

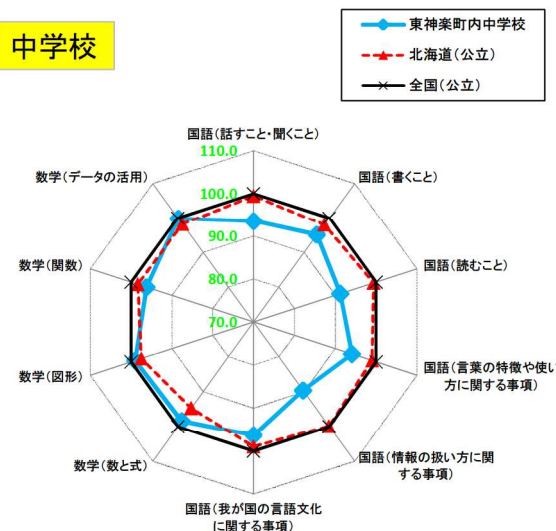
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	54
算数・数学	63	52

小学校

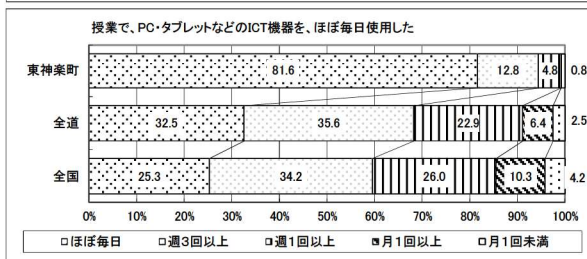
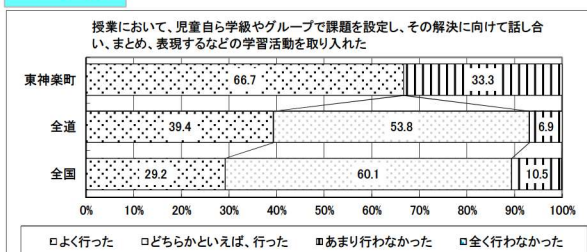


中学校

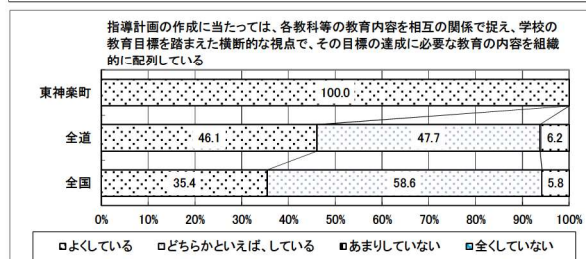
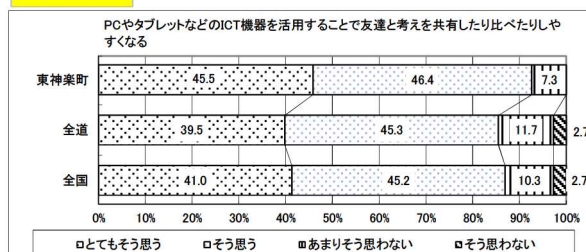


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

小学校高学年における専科指導、習熟度別学習など個に応じた指導の充実を図ったことにより、授業において、児童自らの学習活動を取り入れたと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1事項、算数の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

1人1台端末の効果的な活用を推進したことにより、授業でPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

1人1台端末の効果的な活用を推進したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することで友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の3領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

小中一貫教育推進委員会による9年間を見据えた教育の充実に向けた取組を推進したことにより、指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していると回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【東神楽町の学力向上策】

- ◎ 東神楽町小中一貫イノベーションプログラム、小中一貫教育推進委員会による9年間を見据えた教育の充実に向けた取組の推進
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用の推進
- ◎ 各学校の状況や規模に応じた小学校高学年における専科指導、習熟度別学習など個に応じた指導の充実

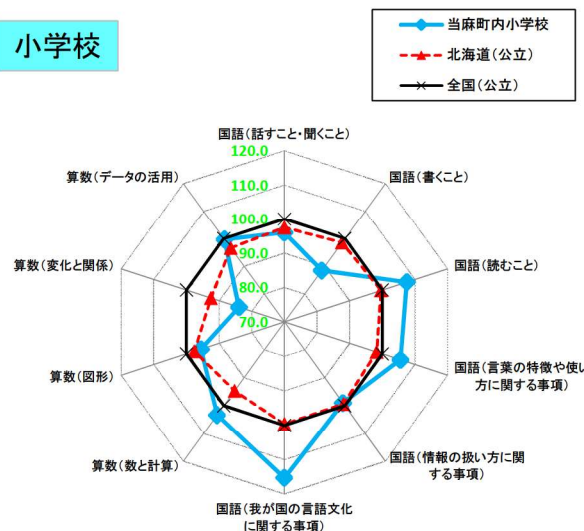
■当麻町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:43人）（中学校数:1校、生徒数:44人）

【教科全体の状況】

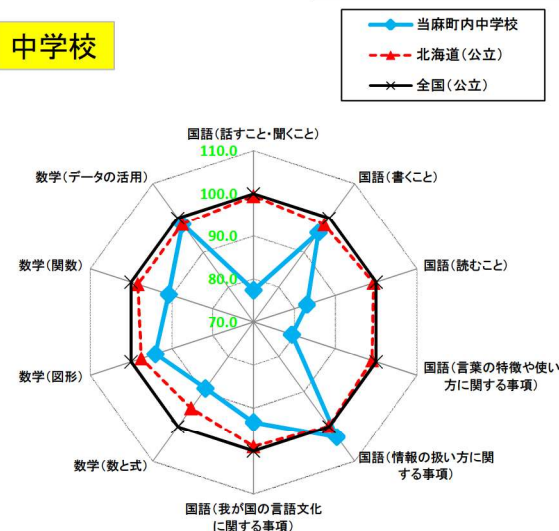
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	50
算数・数学	62	49

小学校

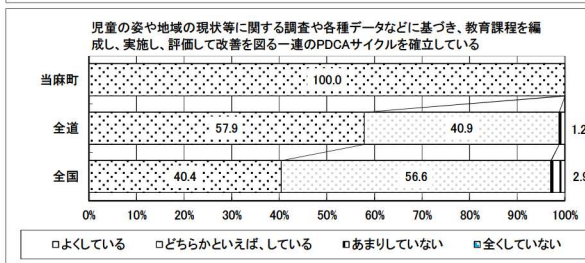
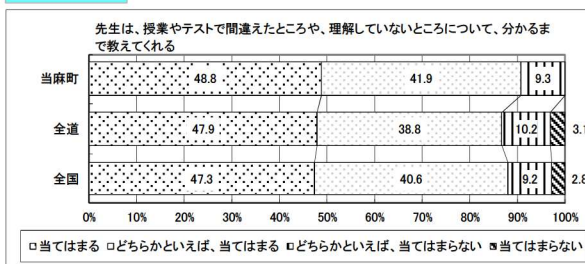


中学校

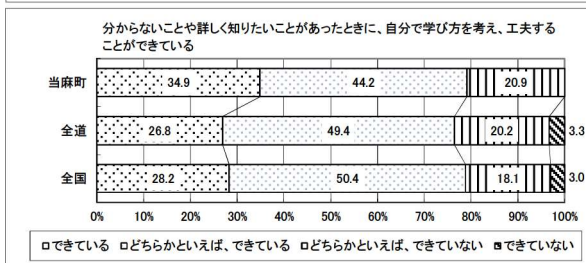
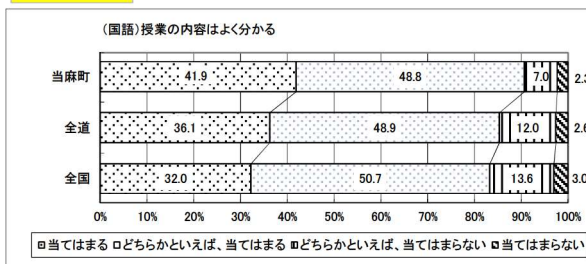


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習支援員を配置し、児童の学習状況に応じた指導の充実を図ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1事項、算数の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

「ほっかいどうチャレンジテスト」の効果的な活用等による学力向上の取組を推進したことにより、児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していると回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習支援員を配置し、生徒の学習状況に応じた指導の充実を図ったことにより、国語の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

1人1台端末を活用した家庭学習等の取組の充実を図ったことにより、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【当麻町の学力向上策】

- ◎ 「ほっかいどうチャレンジテスト」の効果的な活用及び長期休業中の学習サポートの実施等による学力向上の取組
- ◎ 学習支援員及び英会話講師の各学校への配置による児童生徒の学習状況に応じた指導の充実
- ◎ 長期休業中における1人1台端末を活用した家庭学習の取組の推進

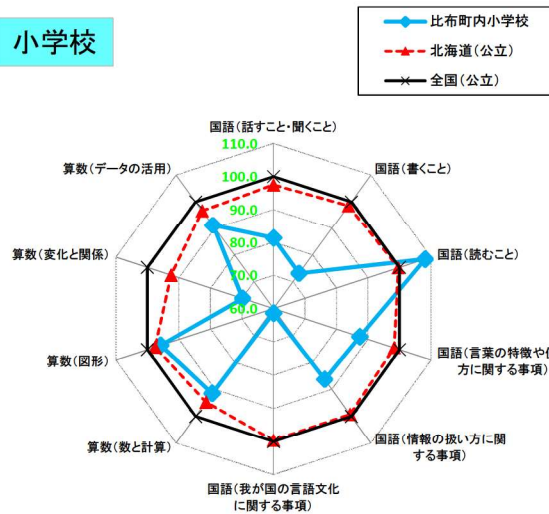
■比布町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：24人）（中学校数：1校、生徒数：20人）

【教科全体の状況】

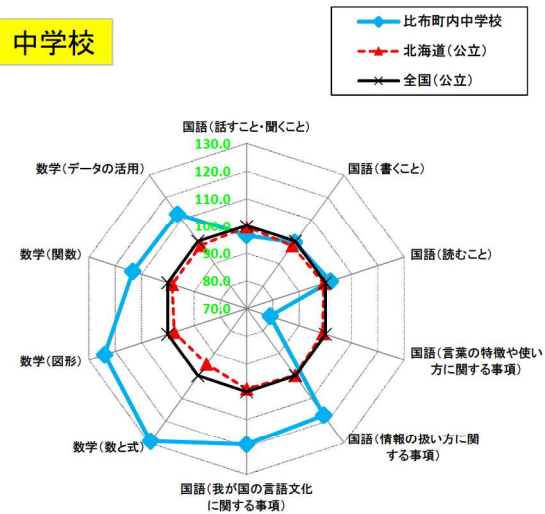
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	58
算数・数学	57	63

小学校

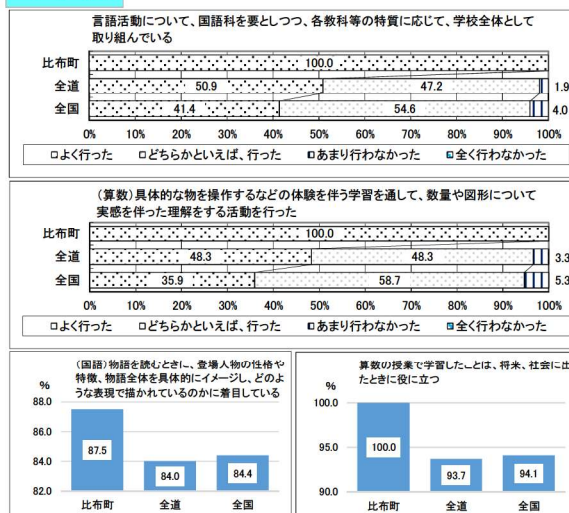


中学校

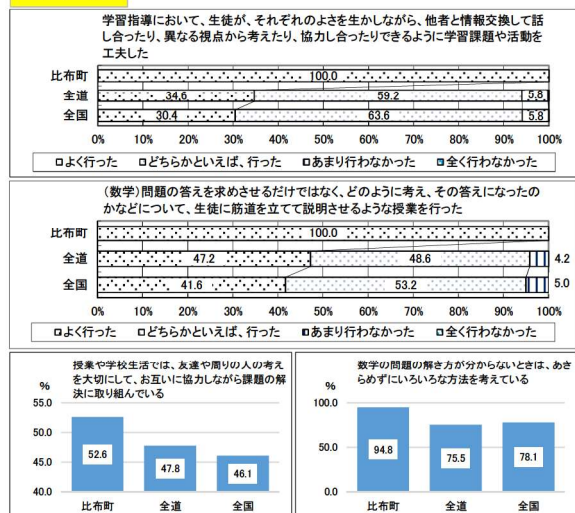


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科の特質に応じて、学校全体として取り組んでいることにより、国語の授業で物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で書かれているかに着目していたと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒が筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えた割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【比布町の学力向上策】

- ◎ 指導方法工夫改善加配の有効活用によるきめ細かな指導の実施
- ◎ 学習塾との連携や放課後学習支援事業の実施
- ◎ 学習支援員や非常勤英語講師の配置による指導の実施

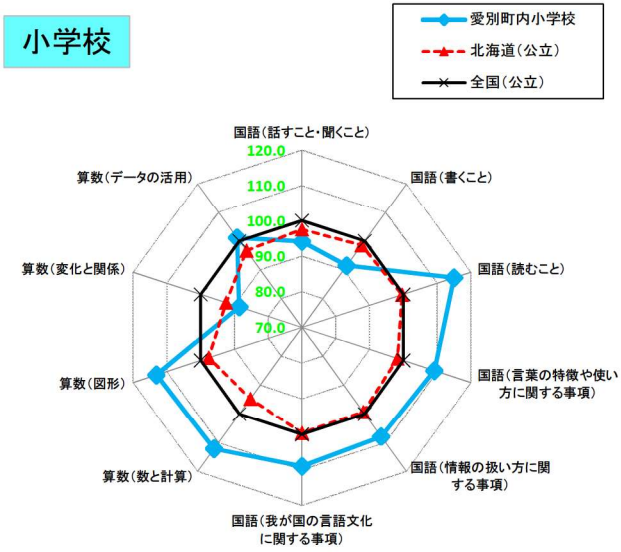
■愛別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:16人）（中学校数:1校、生徒数:11人）

【教科全体の状況】

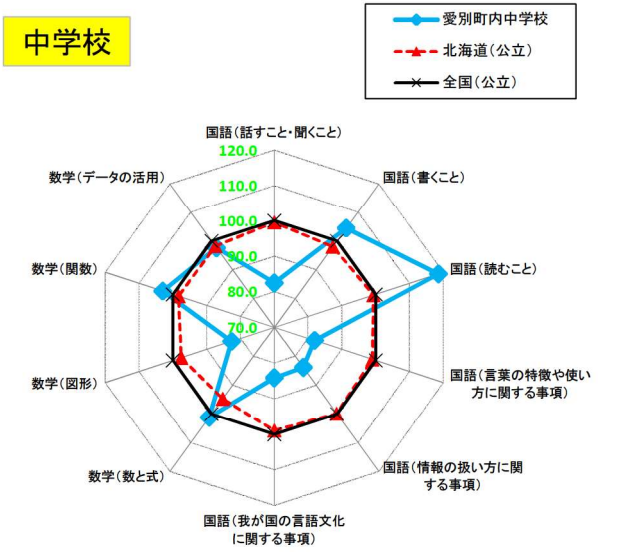
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	71	55
算数・数学	68	52

小学校

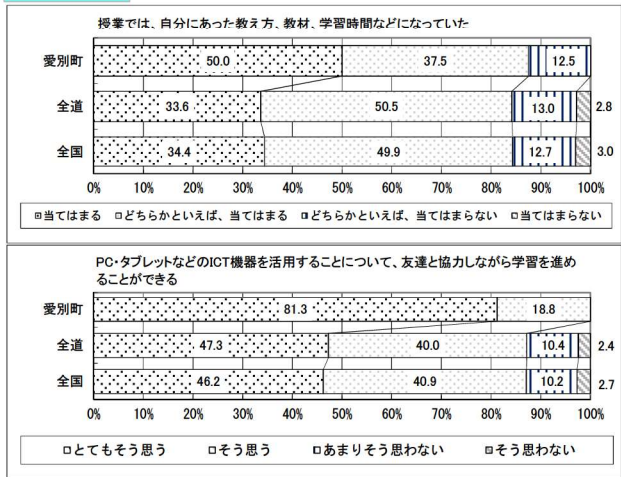


中学校

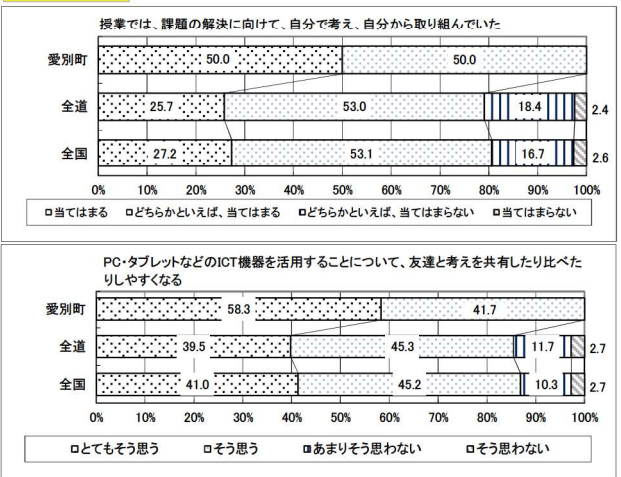


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

習熟度別指導や少人数指導、チーム・ティーチング等、個に応じた指導の充実を図ったことにより、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域3事項及び算数の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICTの効果的な活用に向けた授業改善を推進したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

習熟度別指導や少人数指導等、指導体制の充実を図ったことにより、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域及び数学の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICTの効果的な活用に向けた授業改善を推進したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【愛別町の学力向上策】

- ◎ 学習の手引を活用した家庭学習の習慣化と望ましい生活習慣形成の推進
- ◎ 「チャレンジゼミ」や「天神クラブ」など、放課後や長期休業中の学習支援の実施
- ◎ 小中連携した習熟度別指導や少人数指導、チーム・ティーチングの実施
- ◎ ICTの効果的な活用に向けた授業改善の推進

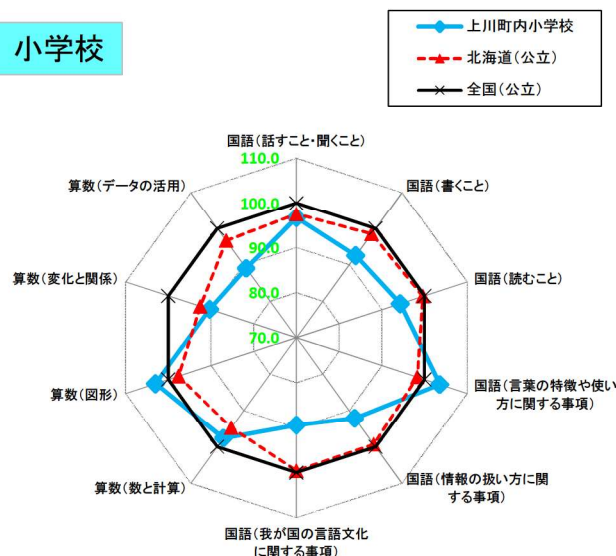
■上川町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:15人）（中学校数:1校、生徒数:13人）

【教科全体の状況】

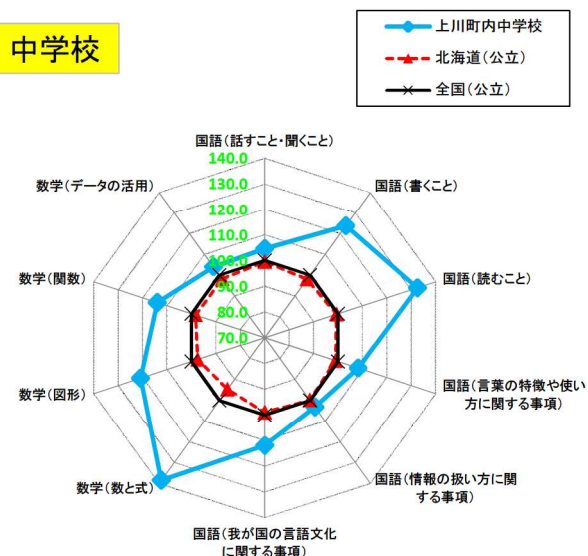
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	67
算数・数学	61	63

小学校

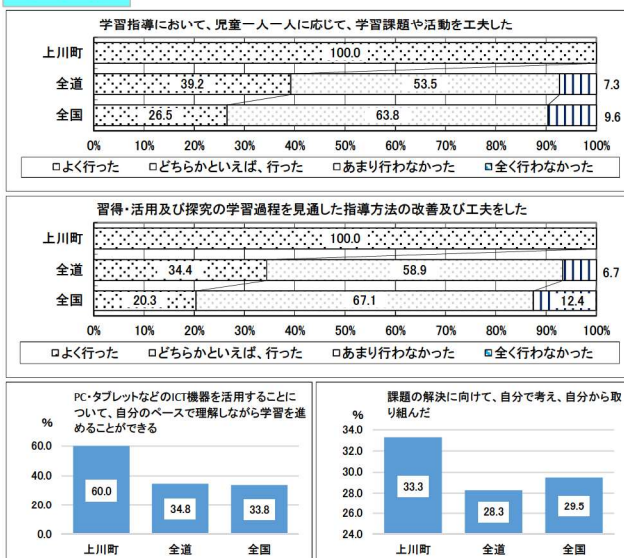


中学校

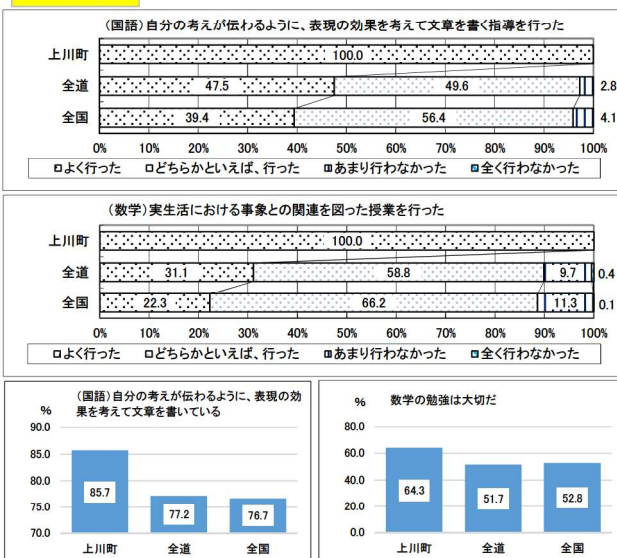


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1事項、算数の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行ったことにより、国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の全ての領域・事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象と関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強は大切だと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【上川町の学力向上策】

- ◎ 習熟の程度に応じた指導やチーム・ティーチングの実施などによるきめ細かな指導の充実
- ◎ 教育活動の活性化を目的とした実践交流や情報交換等、小中連携した取組の実施
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用に向けた教職員の資質能力向上のための研修支援

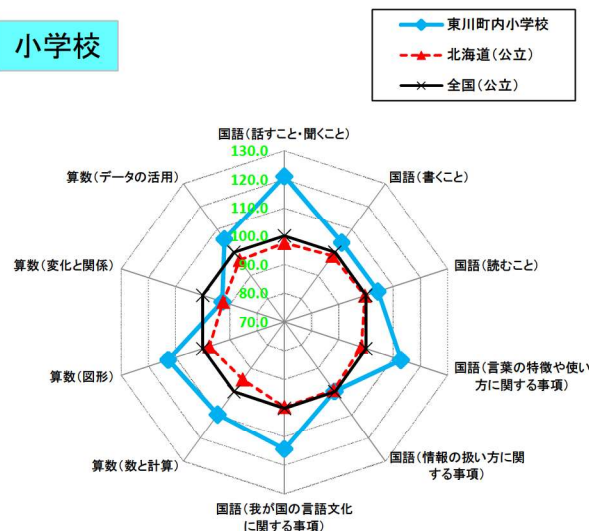
■東川町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:75人）（中学校数:1校、生徒数:70人）

【教科全体の状況】

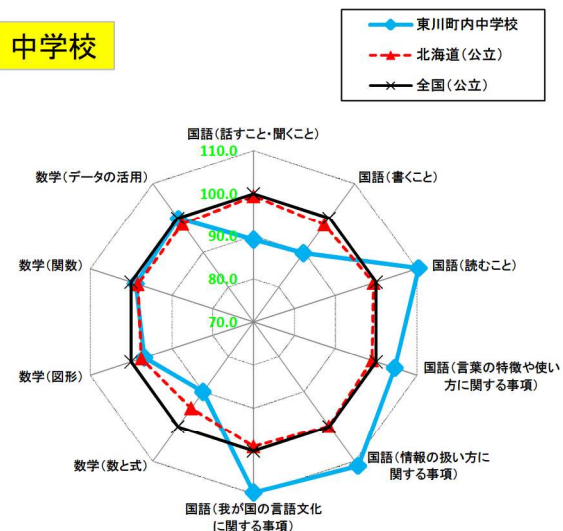
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	75	59
算数・数学	67	51

小学校

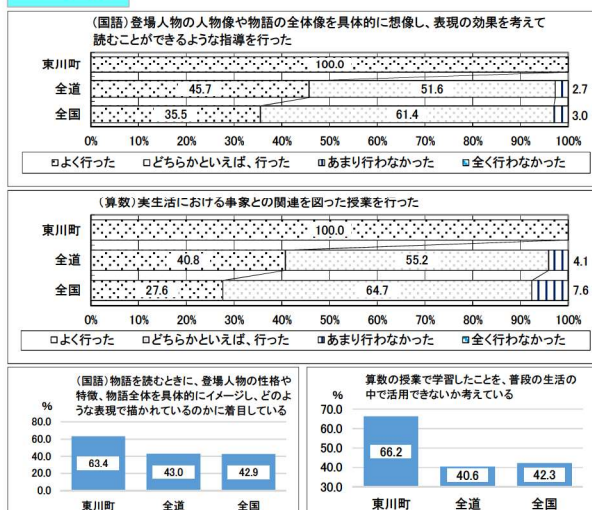


中学校

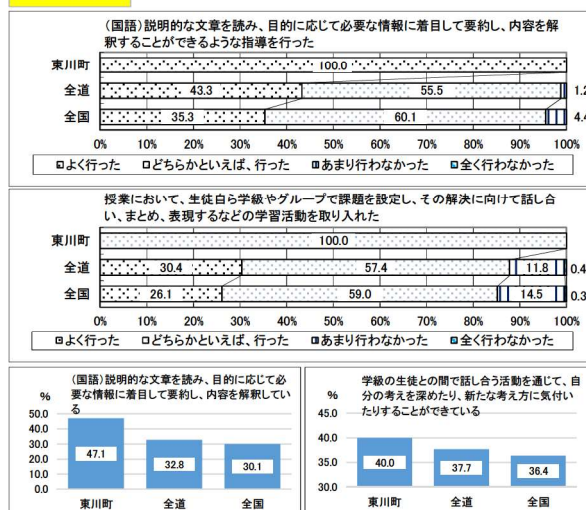


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考え、読むことができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているかに着目していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【東川町の学力向上策】

- ◎ 質の高い授業に向けた校内研修などの教職員研修の充実
- ◎ 学習支援員、教育補助員、特別支援教育支援員の配置による習熟の程度に応じた指導等の充実
- ◎ 放課後学習サポート及び「地域未来塾」による生徒の学習内容の確実な定着に向けた取組の推進

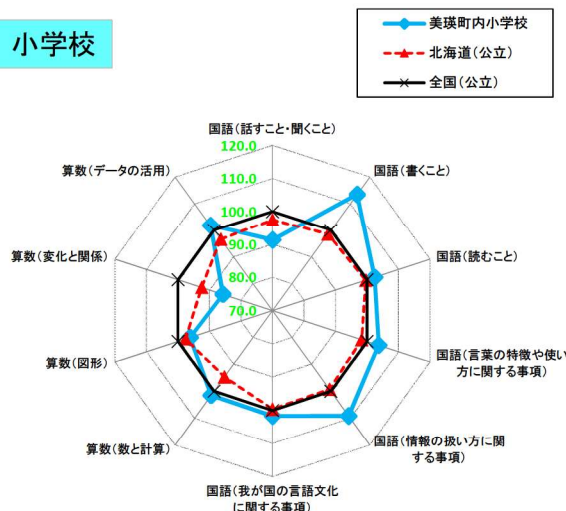
■美瑛町内の状況及び学力向上策（小学校数：5校、児童数：58人）（中学校数：2校、生徒数：70人）

【教科全体の状況】

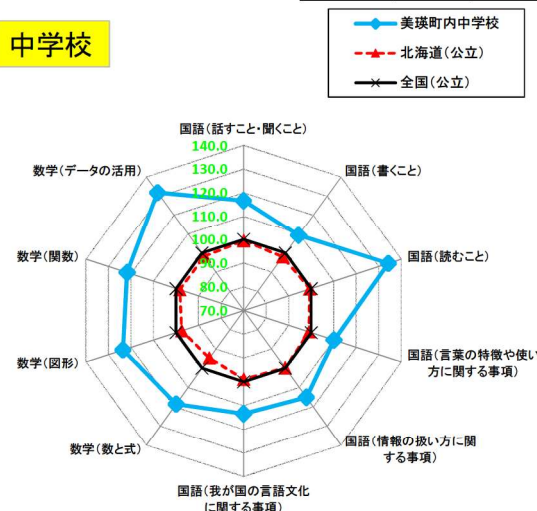
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	68
算数・数学	62	65

小学校

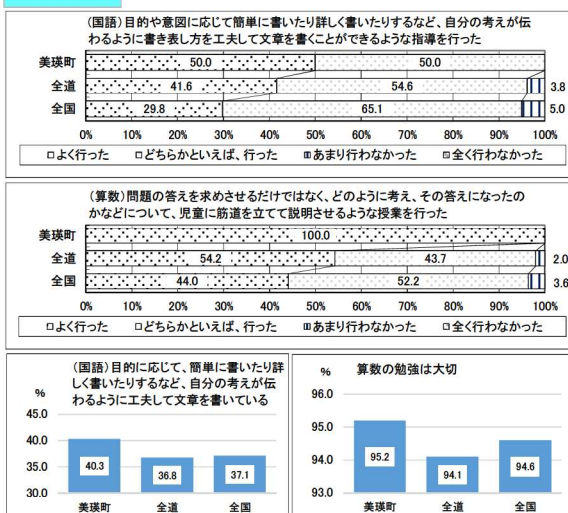


中学校

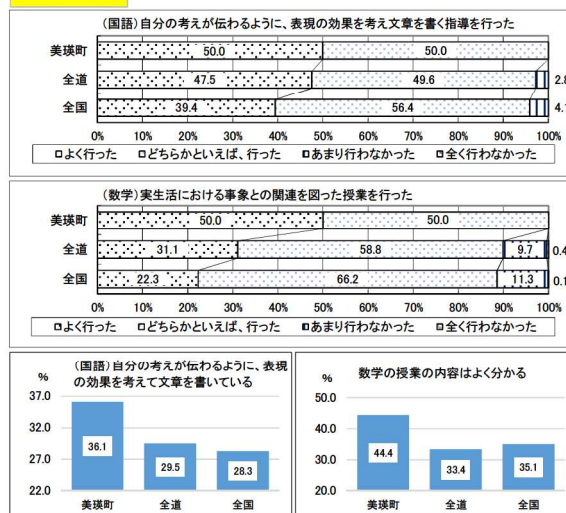


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、算数の勉強は大切だと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えた文章を書く指導を行ったことにより、国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えた文章を書いていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の全ての領域・事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【美瑛町の学力向上策】

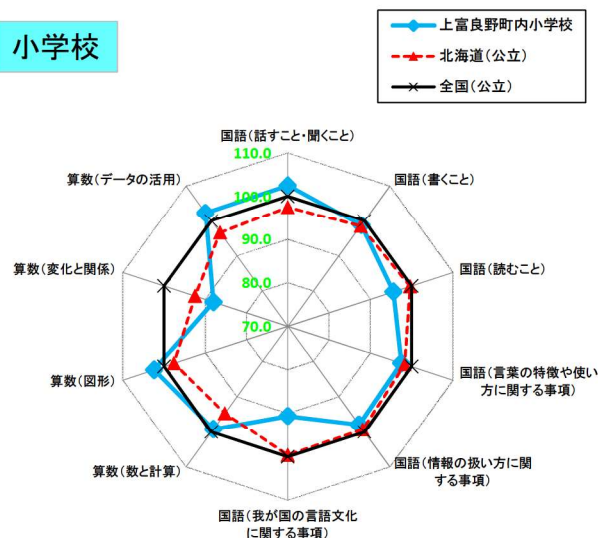
- ◎ 児童の学力の保障と学びへの意識の向上を図る小学生学習ルームの実施
- ◎ 美瑛町教育推進協議会を主体とする、中学校教員による小学校への出前授業や幼小中高相互の授業参観交流の実施
- ◎ 児童生徒の主体的な協議を促進する複数の学校が参加するオンライン会議の実施、授業や学校行事などにおける児童生徒がスライドやジャムボードを活用して表現やまとめを行う活動の充実、欠席した児童生徒の学習をサポートするための授業のライブ配信の実施

■上富良野町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:74人）（中学校数:1校、生徒数:74人）

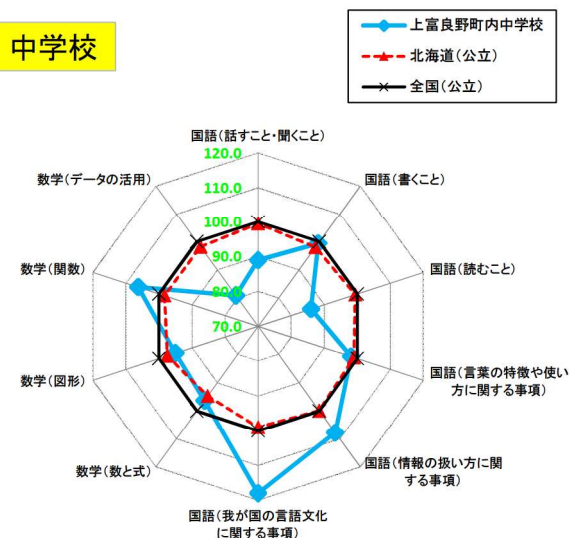
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

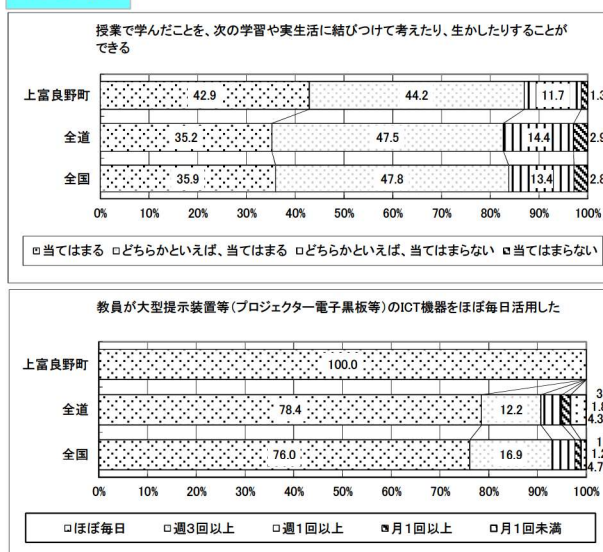


中学校

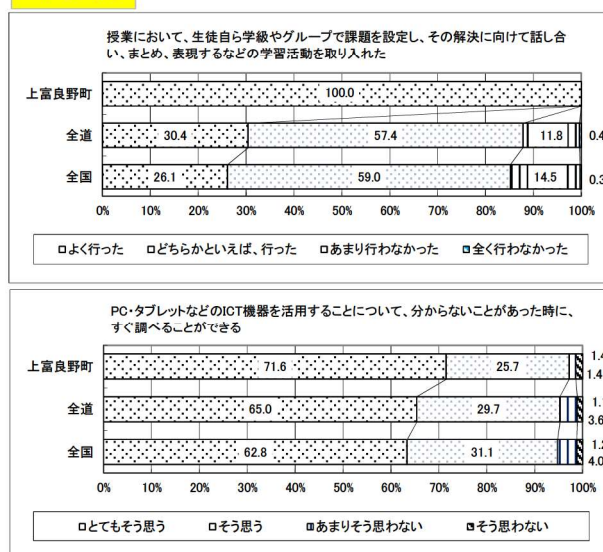


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

「上富良野町確かな学力の育成プラン」に基づく、具体的方策の共有を行ったことにより、各校の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進が図られ、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1事項、算数の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICT機器の効果的な活用の推進を図ったことにより、教員が大型提示装置等（プロジェクター・電子黒板等）のICT機器をほぼ毎日活用したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

「上富良野町確かな学力の育成プラン」に基づく、具体的方策の共有を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進が図られ、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2事項、数学の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICT機器の効果的な活用の推進を図ったことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、分からないことがあった時に、すぐ調べる事ができると回答した生徒の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

【上富良野町の学力向上策】

- ◎ 「上富良野町確かな学力の育成プラン」に基づく具体的方策の共有と授業改善の推進
- ◎ ICT機器の効果的な活用の推進
- ◎ 「家庭学習のすすめ」に基づく家庭学習時間の改善と学習内容の個別化に向けた取組の推進

【Webページ】



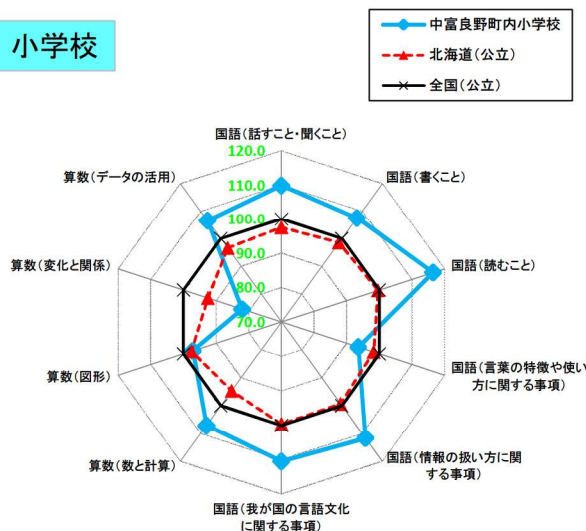
■中富良野町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:34人）（中学校数:1校、生徒数:39人）

【教科全体の状況】

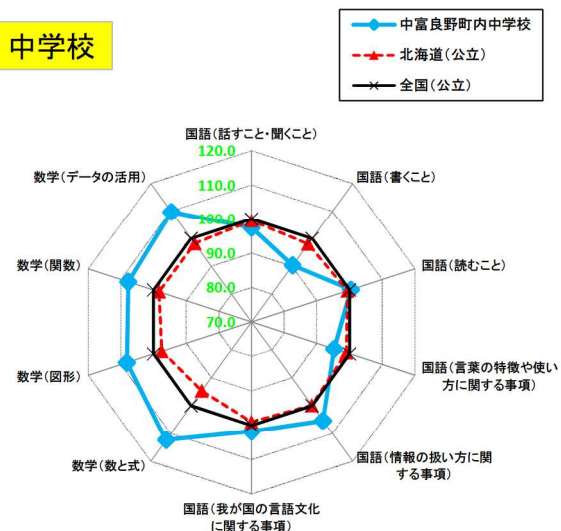
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	72	57
算数・数学	63	58

小学校

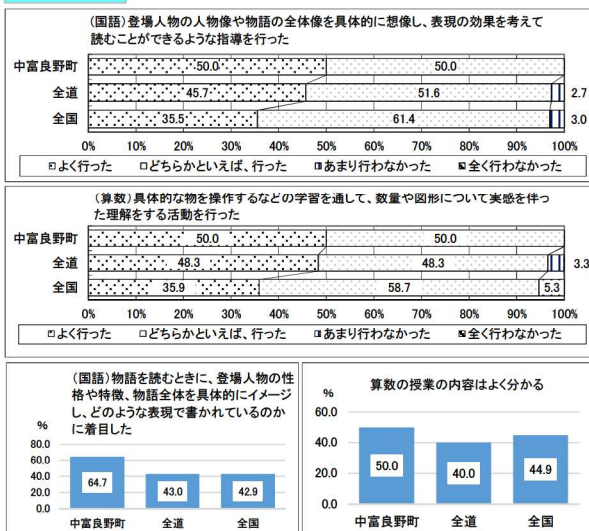


中学校

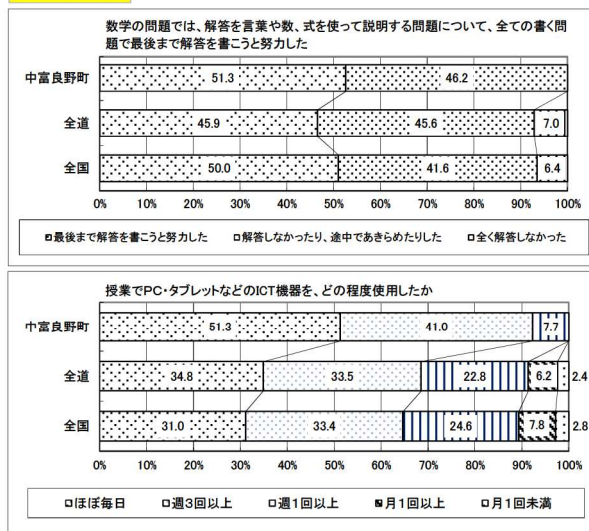


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えることができるような指導を行ったことにより、国語の授業において、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で書かれているのかに着目していたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの学習を通して、数量や図形について実感をついた理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容がよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

加配教員や学習支援員を活用した習熟度に応じた指導を充実させたことにより、数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICT機器の効果的な活用を推進したことにより、授業でPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【中富良野町の学力向上策】

- ◎ 習熟度に応じた指導など基礎・基本の確実な定着のための加配教員、学習支援員の活用
- ◎ 地域の人材を活用した探究的な学習の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業改善の推進

【Webページ】



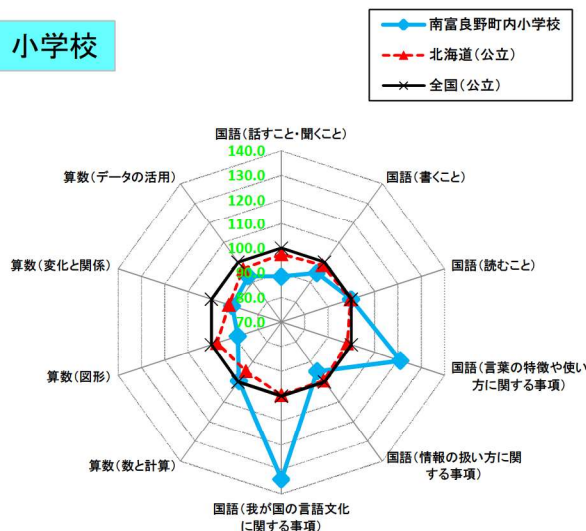
■南富良野町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:15人）

【教科全体の状況】

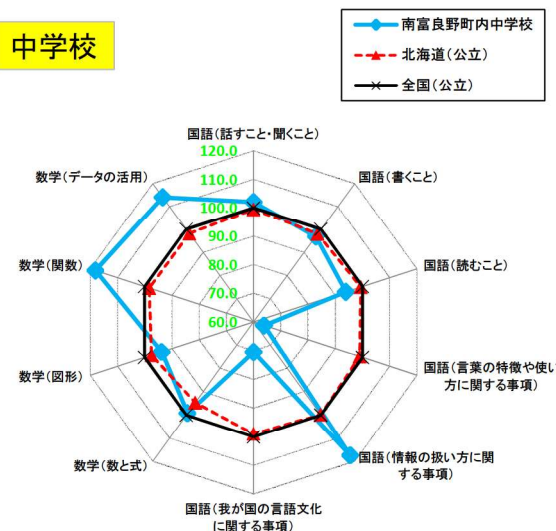
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	71	53
算数・数学	60	57

小学校

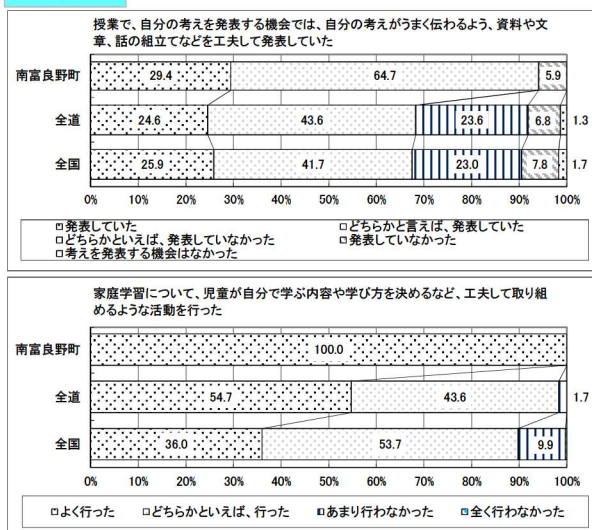


中学校

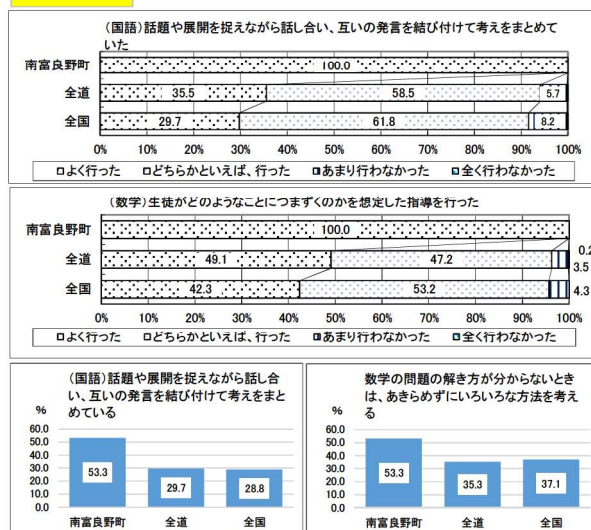


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

小中高連携による教員の資質能力の向上をねらいとした学力向上講習を実施したことにより、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が図られ、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

家庭と連携した学習環境づくりを推進したことにより、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行ったと回答した学校が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えて回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【南富良野町の学力向上策】

- ◎ ICT端末を活用した学習支援ソフトによる授業補完や家庭学習の習慣化を図る取組の推進
- ◎ 小中高連携による教員の資質能力の向上をねらいとした学力向上講習の実施
- ◎ 家庭と連携した学習環境づくりの推進

【Webページ】



■ 占冠村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:2人）（中学校数:2校、生徒数:7人）

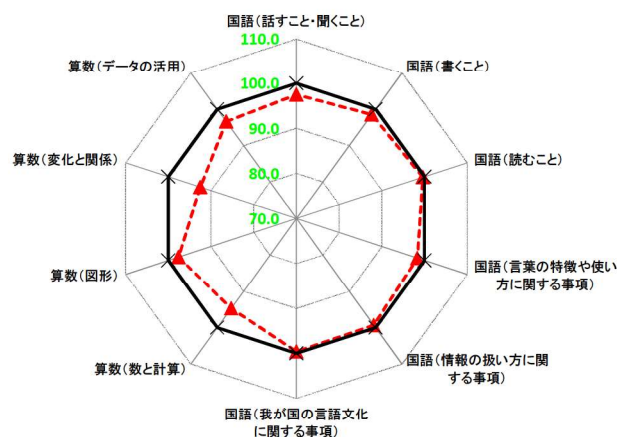
※児童生徒数が少なく、個人の結果が特定される恐れがあるため、小学校の教科調査のデータは掲載していない。

【教科全体の状況】

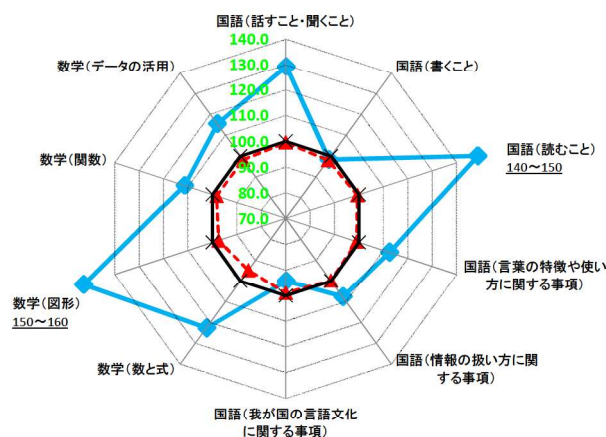
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	-	70
算数・数学	-	64

小学校

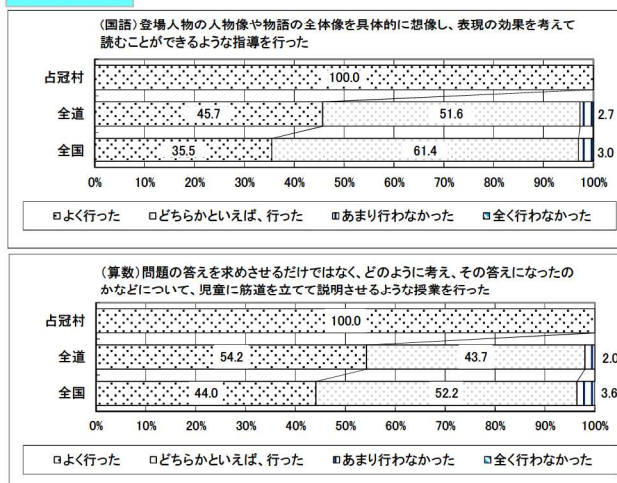


中学校

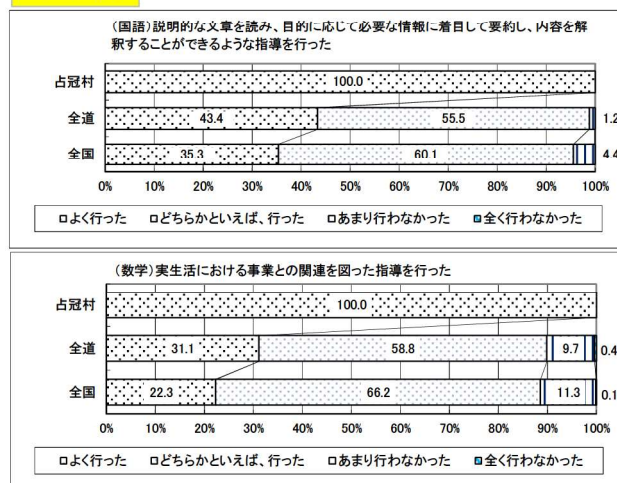


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

義務教育9年間を見通した教育課程の編成等、小中連携教育の推進を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考え読むことができるような指導を行ったと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

持続性のある教育の推進に向けた小中合同連携会議を開催したことにより、授業改善が図られ、算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の2領域2事項で全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、数学の全ての領域で全国及び全道を上回ったと考えられる。

【占冠村の学力向上策】

- ◎ 義務教育9年間を見通した教育課程の編成等、小中連携教育の推進
- ◎ 持続性のある教育の推進に向けた小・中合同連携会議の開催
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用に向けた村独自の端末利活用に関するルールの設定及び家庭学習における活用の推進

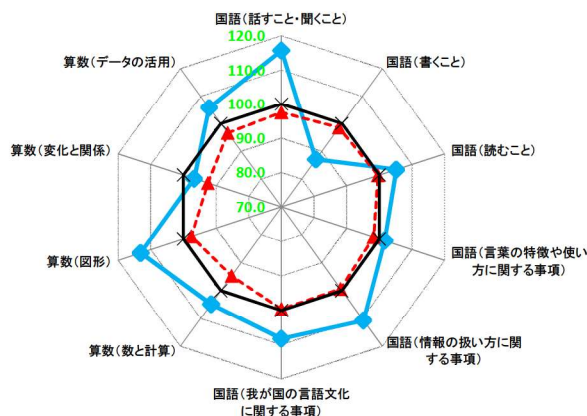
■和寒町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：26人）（中学校数：1校、生徒数：19人）

【教科全体の状況】

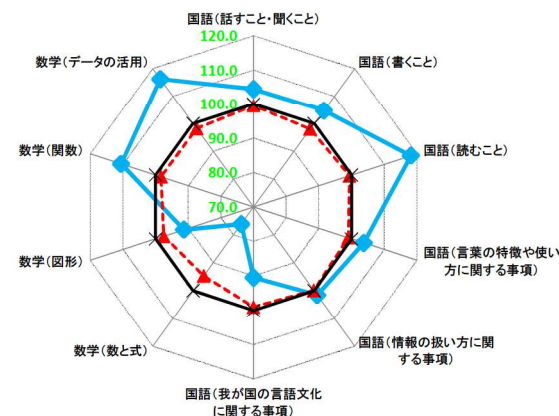
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	71	61
算数・数学	68	52

小学校

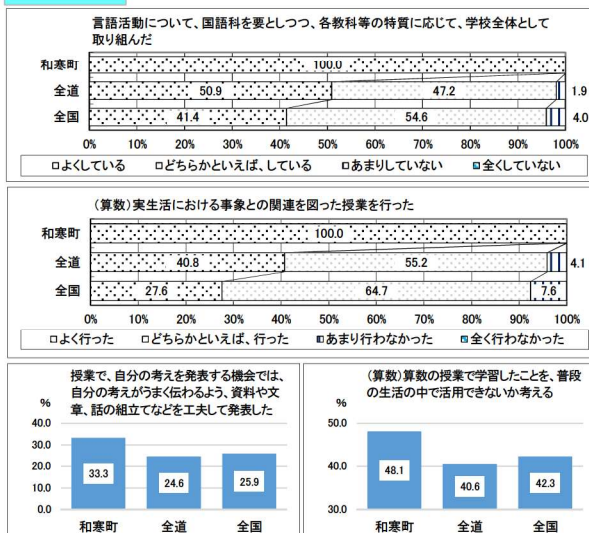


中学校

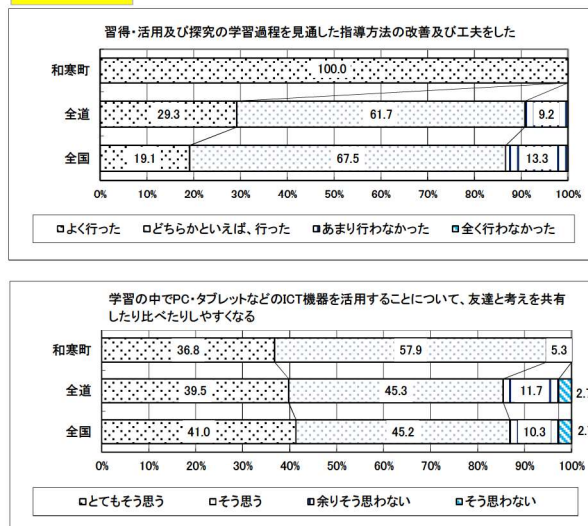


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えることと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

各種研修等を通じた教職員の情報共有と授業力の向上に係る取組を推進したことにより、学校において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫が行われ、国語の3領域2事項、数学の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

1人1台端末の活用による授業改善を推進したことにより、学校において、端末の効果的な活用が進み、学習の中でICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【和寒町の学力向上策】

- ◎ 基礎学力の向上をねらいとする指導体制の工夫や学習サポートの取組の推進
- ◎ 各種研修等を通じた教職員の情報共有と授業力の向上に係る取組の推進
- ◎ 1人1台端末の活用による授業改善の推進

【Webページ】



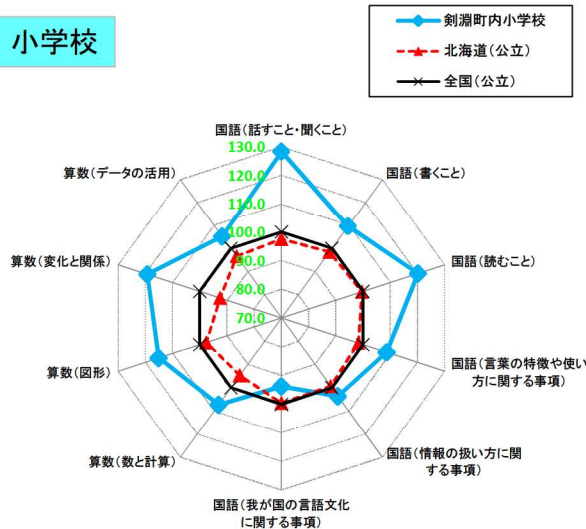
■ 剣淵町内の状況及び学力向上策 （小学校数:1校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:20人）

【教科全体の状況】

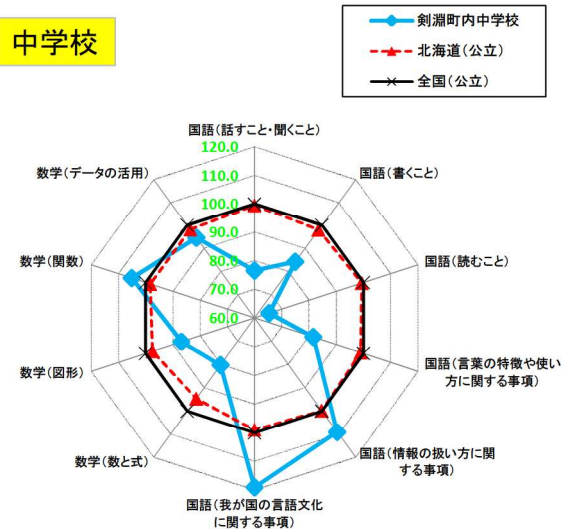
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	77	49
算数・数学	71	48

小学校

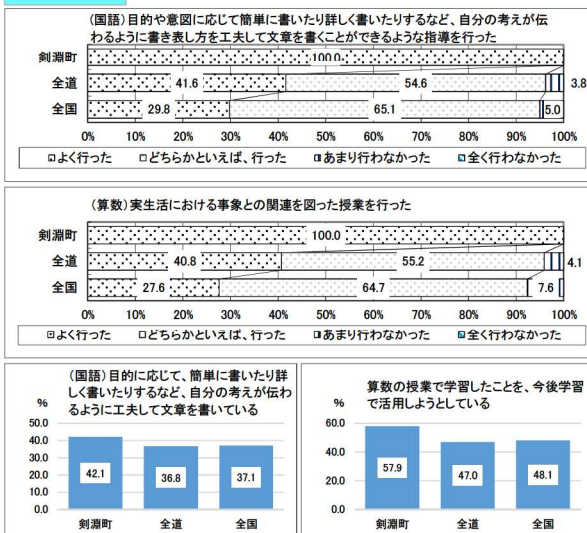


中学校

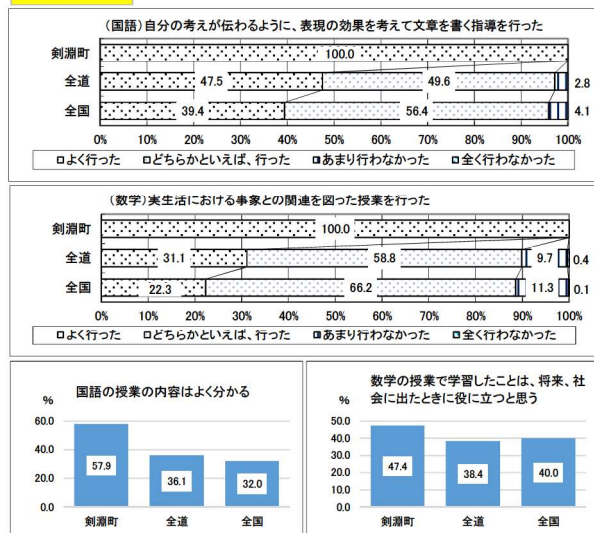


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えた文章を書く指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【剣淵町の学力向上策】

- ◎ 漢字検定、英語検定、数学検定などの受検料補助や受検会場の確保など教科検定支援事業の推進
- ◎ ICT端末上で使用可能な学習ドリルを活用した授業の推進
- ◎ 剣淵町小中高連携教育協議会教科部会における相互授業参観や授業改善に向けた部会協議の推進

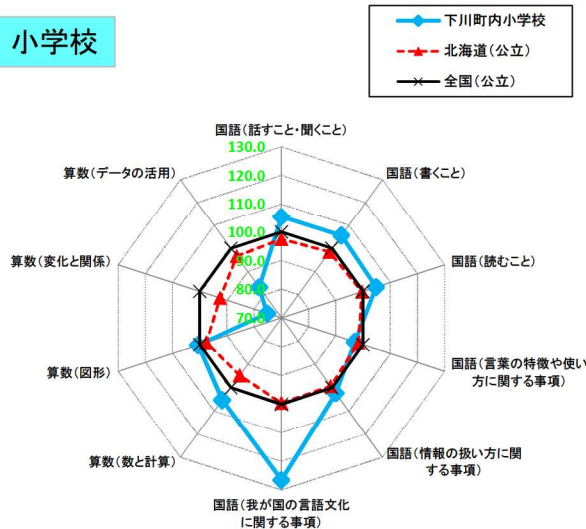
■下川町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：18人）（中学校数：1校、生徒数：20人）

【教科全体の状況】

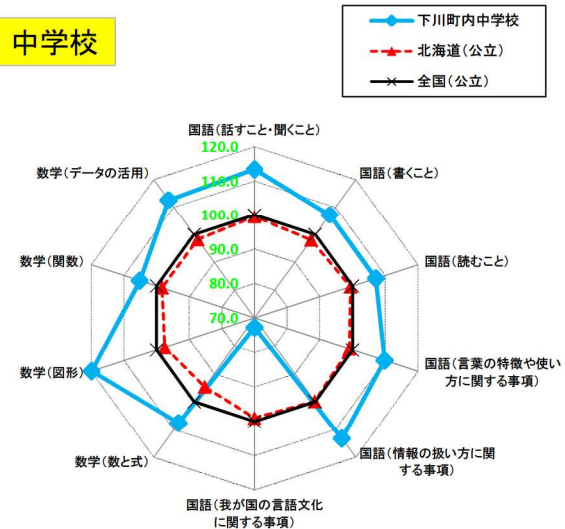
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	71	62
算数・数学	60	58

小学校

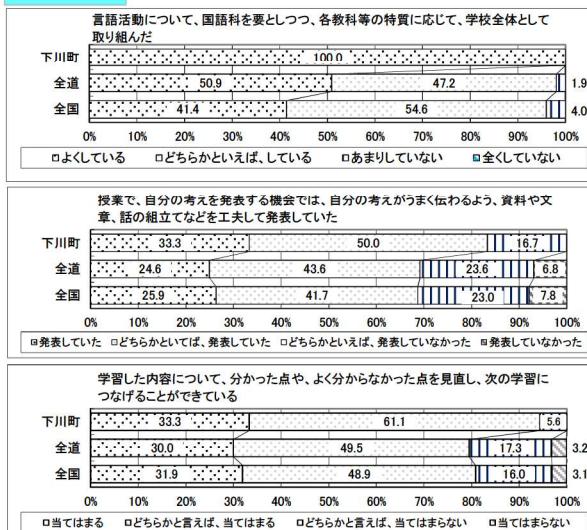


中学校

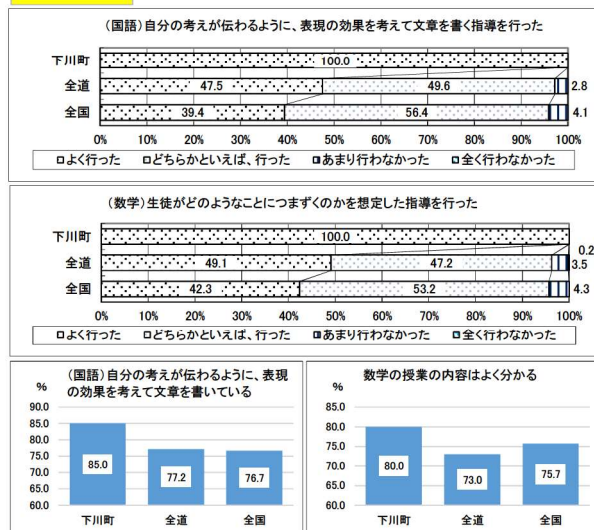


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

前時の振り返りや課題解決場面において、児童の思考を深める1人1台端末の活用を推進したことにより、学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えた文章を書く指導を行ったことにより、国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えた文章を書いていくと肯定的に回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かったと肯定的に回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったとともに、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【下川町の学力向上策】

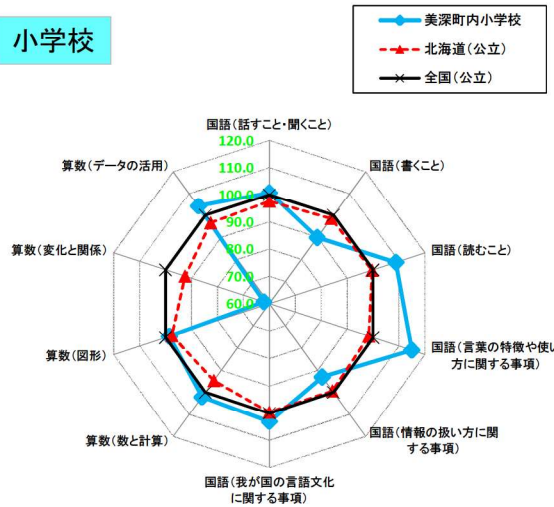
- ◎ 小中連携した学習規律や授業展開の徹底
- ◎ 前時の振り返りや課題解決場面における、児童生徒の思考を深める1人1台端末の活用
- ◎ 家庭学習の充実や習慣化に向けた「ウィークエンドスクール」の実施

■美深町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:26人）（中学校数:2校、生徒数:32人）

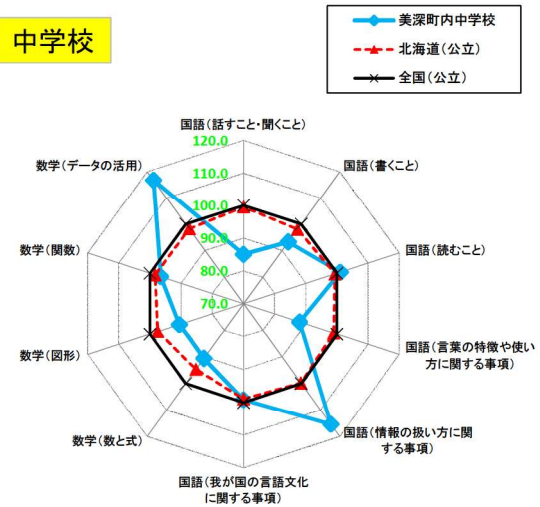
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校

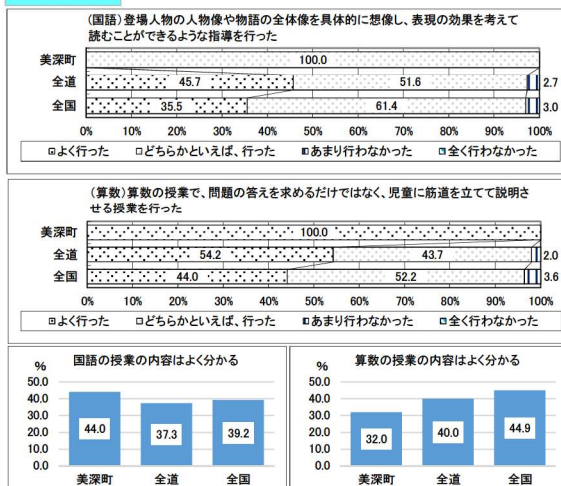


中学校

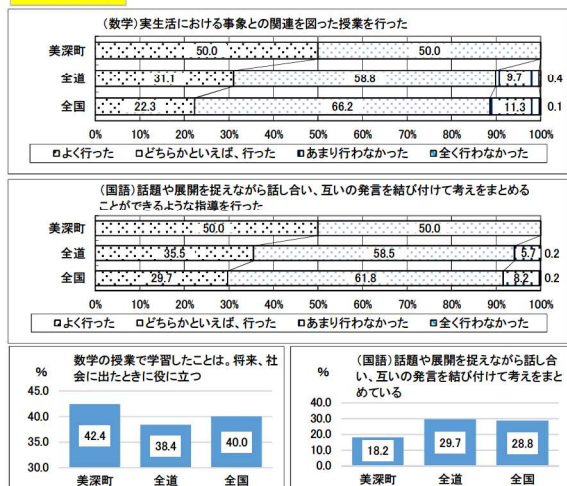


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考え読むことができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったが、算数の授業の内容がよく分かると回答した児童の割合が全国を下回ったことから、どう考えればその答えになるかをより多くの児童が納得できるよう、個に応じた指導に努める。

中学校

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回り、他の3領域でも平均正答率が全国及び全道に近い結果になったと考えられる。

国語の授業において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめるような指導を行ったが、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている」と回答した生徒の割合が全国を下回ったことから、リーディングスキルテストを活用するなど、引き続き読解力の向上に努める。

【美深町の学力向上策】

- ◎ 個に応じた指導の充実や英語検定、漢字検定を活用した学力向上の取組の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した学習の推進
- ◎ 学校運営協議会や保護者と課題を共有した教育活動の推進
- ◎ 幼小中高が連携した課題解決の取組の推進
- ◎ リーディングスキルテスト(中学校)を活用した、読解力向上のための指導の充実

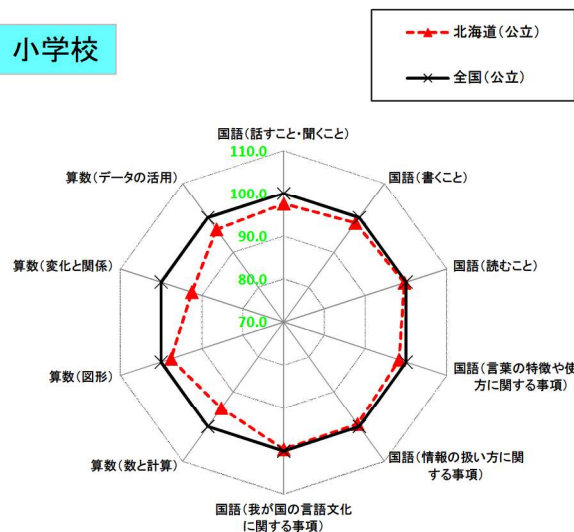
■音威子府村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:4人）（中学校数:1校、生徒数:3人）

※児童生徒数が少なく、個人の結果が特定される恐れがあるため、小・中学校の教科調査のデータは掲載していない。

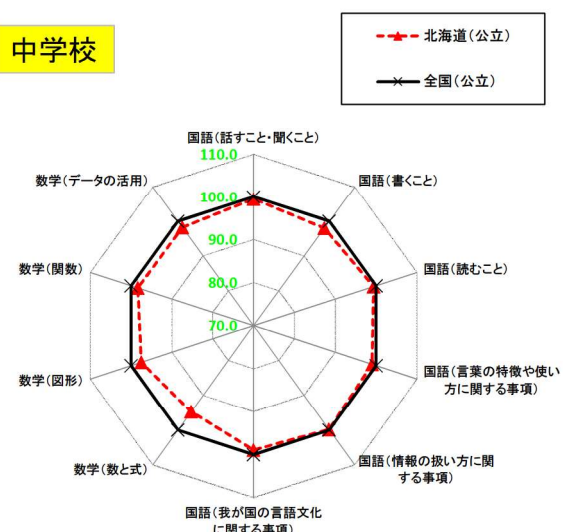
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

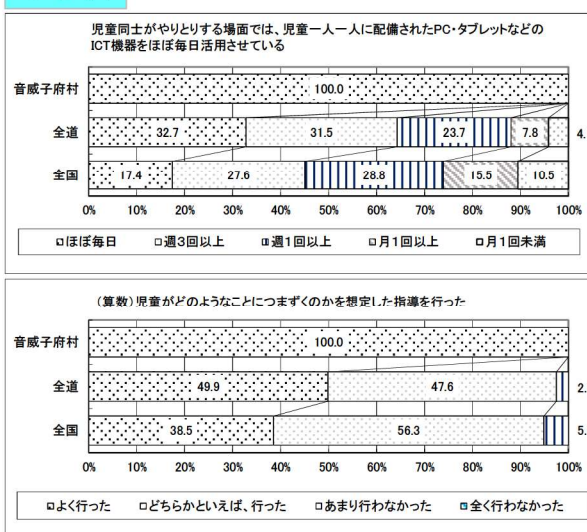


中学校

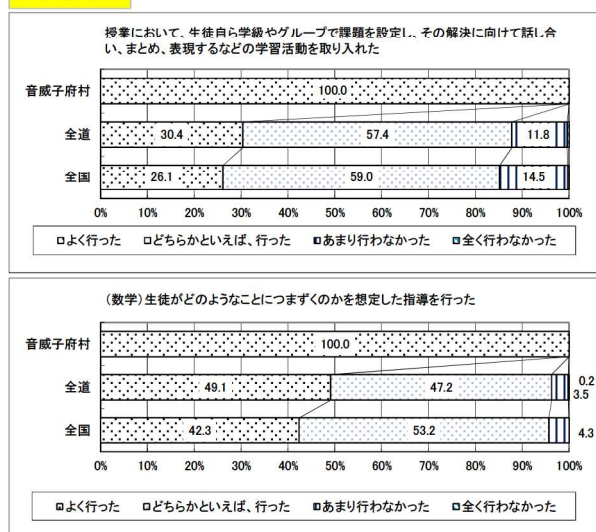


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

1人1台端末を効果的に活用した個に応じた指導の充実を図ったことにより、児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用していると回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

年2回の学力検査の実施による、ショートスパンの検証改善サイクルの確立に向けた取組を推進したことにより、算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

地域資源を活用した体験的な活動とICTをベストミックスさせた教育活動の充実を図ったことにより、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

年2回の学力検査の実施による、ショートスパンの検証改善サイクルの確立に向けた取組を推進したことにより、数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【音威子府村の学力向上策】

- ◎ 年2回の学力検査の実施による、ショートスパンの検証改善サイクルの確立に向けた取組の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した個に応じた指導の充実
- ◎ 地域資源を活用した体験的な活動とICTをベストミックスさせた教育活動の充実

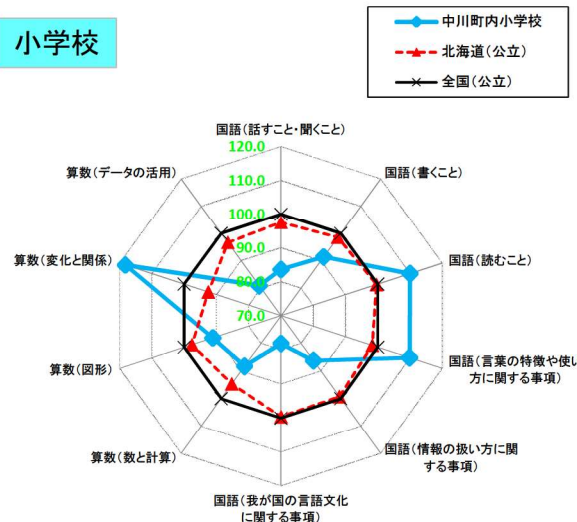
■中川町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：12人）（中学校数：1校、生徒数：7人）

【教科全体の状況】

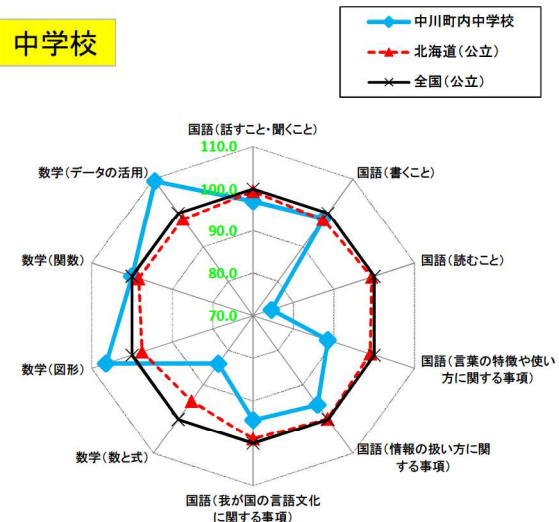
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	52
算数・数学	59	52

小学校

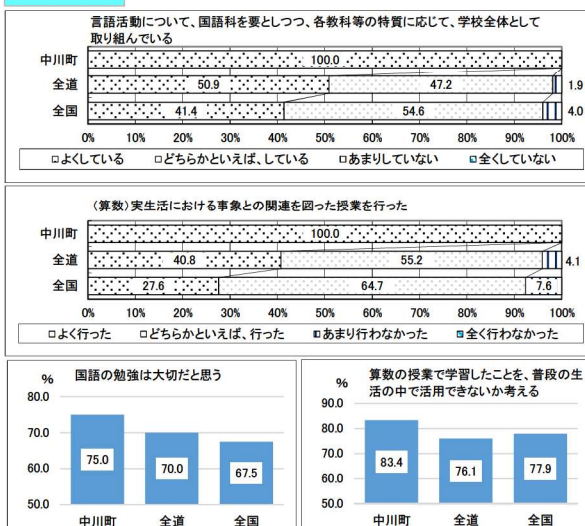


中学校

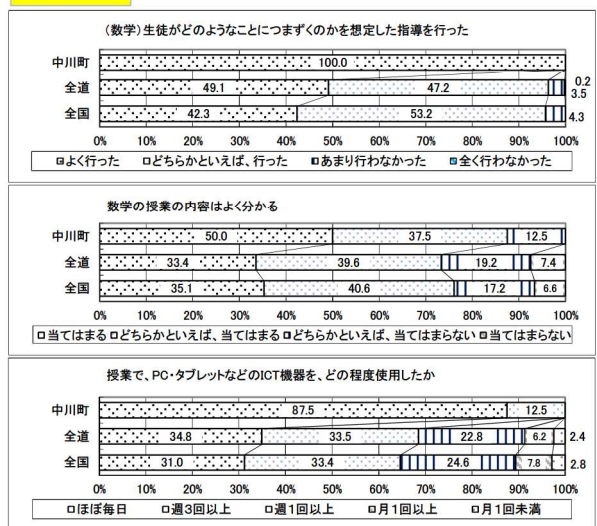


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に關する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「変化と関係」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくかを想定した指導を行ったことにより、数学の授業はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学校教育情報化検討会議を中心としたICT端末の効果的な活用による授業の質的向上に向けた取組を推進したことにより、授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【中川町の学力向上策】

- ◎ 学習内容の確実な定着をねらいとする、朝・放課後サポート学習における補習や追試の実施
- ◎ ボランティアを活用した放課後学習支援「ながかわ塾」による基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた取組の充実
- ◎ 義務教育9年間を見通した教育課程の編成など、小中連携教育の推進
- ◎ 中川町学校教育情報化検討会議を中心とした、ICT端末の効果的な活用による授業の質的向上に向けた取組の推進

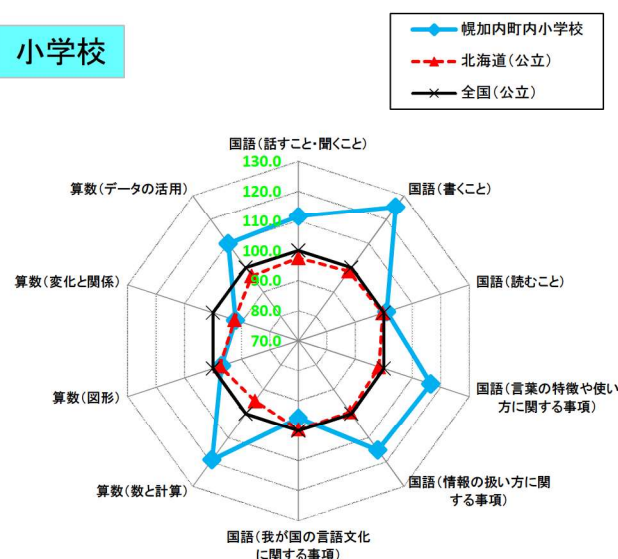
■幌加内町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:7人）（中学校数:1校、生徒数:8人）

【教科全体の状況】

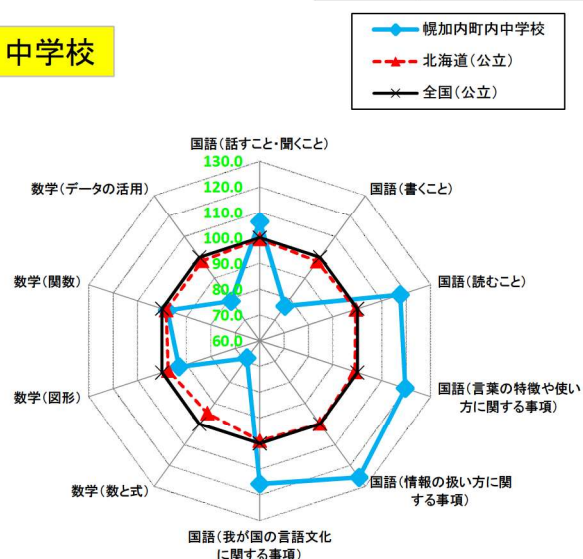
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	76	64
算数・数学	67	44

小学校

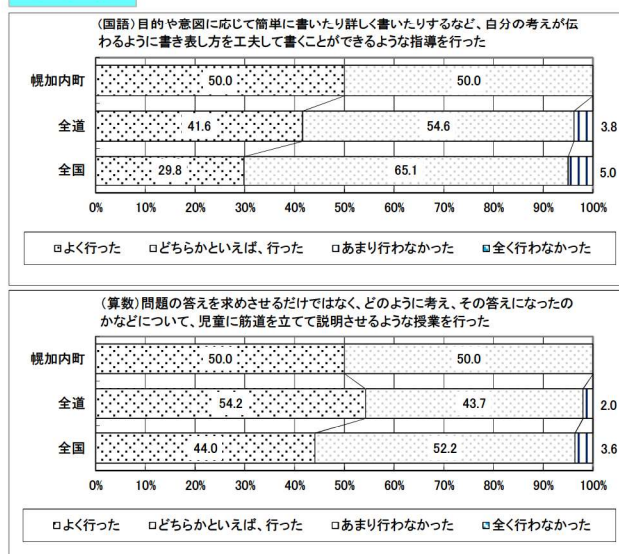


中学校

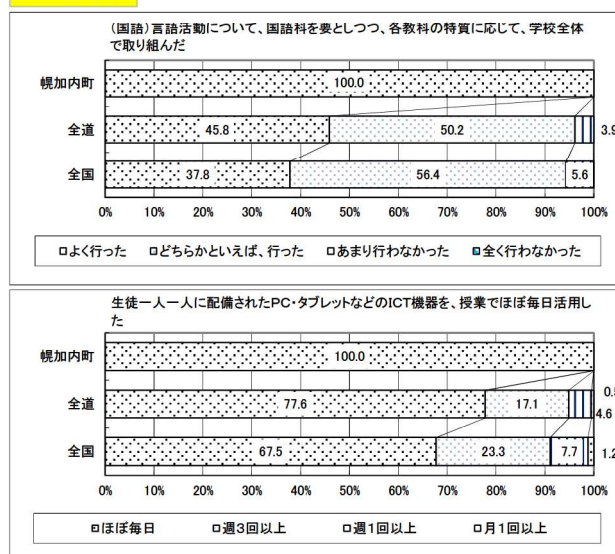


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように工夫して書くことができるような指導を行ったことにより、国語の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、算数の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科の特質に応じて、学校全体で取り組んだことにより、国語の2領域3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係る研修会を実施したことにより、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【幌加内町の学力向上策】

- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係る研修会の実施
- ◎ 小規模校の特性を生かした一人一人へのきめ細かな指導の充実
- ◎ 授業における課題提示や学習の振り返りの位置付けなど、授業改善の推進